

2025年度

事業報告

自 2025年 4月 1日

至 2026年 3月31日

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

Yamaha Motor Foundation for Sports (YMFS)

静岡県磐田市新貝2500番地

目次

【事業報告】

「事業の概況」	2
---------	---

「事業別の状況」

◆チャレンジ支援事業（公1）

1. 助成(スポーツチャレンジ助成)	3
2. 表彰(スポーツチャレンジ賞)	5
3. 普及啓発のための情報発信	6

◆スポーツ体験促進事業（公2）

1. 各種体験活動	
(1) ジュニアヨットスクール葉山(セーリング体験)	7
(2) セーリング競技会(セーリング競技体験)	8
(3) 自然体験絵画コンテスト(自然体験)	9
(4) 教材の提供(体験活動に必要な教材の提供)	10
(5) 体験型スポーツ教室/イベント	10
2. 調査研究	11
3. 普及啓発のための情報発信	13

【事務報告】

1. 理事会・評議員会・評議員選定委員会	14
2. 理事・監事・評議員	15
3. 主な事業協力者・関係者	16
4. 自律的ガバナンス	18

【事業関連情報】

1. 第19・20期助成対象者	19
2. 第34回セーリング・チャレンジカップIN 浜名湖 参加団体及び上位入賞者	23
3. 第37回全国児童自然体験絵画コンテスト入賞者	24
4. スポーツ教材の提供先	26

「事業の概況」

2025年度は、ロシアのウクライナへの武力侵攻、中東におけるイスラエルとハマスの武力交戦が未だ終焉を迎えることが出来ず、直近ではアメリカ・イスラエルとイランとの戦闘も勃発し、世界情勢は大きな課題を抱える痛ましく残念な年でもあり、一日も早い穏やかな時が、全世界に訪れる事を願うばかりです。

また、日本においては初の女性内閣総理大臣である高市内閣が発足し、強い経済の実現に向けて大きな一歩を踏み出し、新たな時代の到来を予感させる年となりました。

スポーツ界においては、MLBロサンゼルス・ドジャースが大谷翔平、山本由伸、佐々木朗希の日本人3選手の大活躍によるワールドシリーズ2連覇、日本初のデフリンピック開催、ミラノ・コルティナ冬季オリンピック・パラリンピックにおける日本代表選手の大活躍等々、日本中に活気に満ちたエネルギーを与えた1年となりました。

そのような状況の中、当財団の各事業活動においては、すべての活動を計画通りに遂行して参りました。

チャレンジ支援事業においては、スポーツチャレンジ助成は伊坂審査委員長を中心に研究、体験各審査委員総勢14名の充実した新体制の下、19期生の活動を積極的に支援するとともに、若手を中心としたチャレンジ精神旺盛な20期生を選考することが出来ました。

19期生成果報告会及び20期生助成金贈呈式の間である“第19回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング”は、本年3月日本青年館ホテルにおいて、以前同様臨場感溢れる有意義なイベントとなった事は言うまでもありません。

また、スポーツチャレンジ賞では、第16回受賞者“遠藤 謙氏”の支援活動として、“ブレードランニングクリニック&ユニバーサルかけっこチャレンジin静岡”を開催、多くの参加者が集まる中意義あるイベントとなりました。

一方、第18回スポーツチャレンジ賞は、公募を中心に17名の候補者の中から2回の選考会を経て、“ブラインドマラソン伴走者安田享平氏”を選考することが出来ました。2026年6月には、表彰式を執り行う予定であります。

スポーツ体験促進事業においては、年度末3月に第34回セーリング・チャレンジカップを例年同様浜名湖において開催し、全国のジュニアセーラーが、浜名湖を舞台に切磋琢磨しました。

自然体験を絵にする自然体験絵画コンテストでは、夏休みの宿題として多くの幼児・小学生の応募があり、楽しい自然体験を沢山経験したことを確認することが出来ました。

また、地域を巻き込む活動、共感の輪を広げる方針の下、「ユニバーサル・スポーツ(ボッチャ)体験会」も計画通り開催。スポーツ教材の提供活動は、昨年同様“ボッチャボールセット”及び“タグラグビーセット”を120団体へ提供。配布先の小中学校等で新たなスポーツ体験をする子どもたちが増えたことと認識しております。

4年目を迎えました中期事業方針“Value5”は、「チャレンジ支援」及び「スポーツ体験促進」という2つの各事業活動において、時代に合致した効率的でより質の高い運営を進めております。

2026年度は、“Value5”総括の年となります。各事業、各活動の更なる質の向上を目指し愚直に推進する年度と捉えており、今年度同様子どもたち等参加者、関係者の方々の安全を最優先し、適宜柔軟な見直し、調整を随時加えながら展開をしていく所存です。

関係の皆様のご支援に改めて感謝を申し上げますとともに、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

「事業別の状況」

◆チャレンジ支援事業（公1）

本事業は、将来、スポーツ振興及びスポーツ文化の発展を担う人材にとっての重要な成長機会と言える「挑戦（チャレンジ）」に焦点をあて、助成対象者（チャレンジャー）を支援する助成事業とチャレンジを称賛し奨励する表彰事業とのシナジーを高めることにより事業の質を向上し、チャレンジすることを総合的に支援する事業として展開しております。各活動の意義・活動内容は、分かりやすくホームページやその他媒体を通じて情報公開します。

1. 助成（スポーツチャレンジ助成）

スポーツ振興及びスポーツ文化の発展において、将来、世界を舞台に活躍できる人材の育成を目的に、スポーツに関する技術・体力の向上、その他実践的活動、及び学術的な研究に対する助成を行います。

〈2025年度（第19期）の助成実績〉

分野	2025年度（第19期）	※参考 2024年度（第18期）
体験助成	15件（1,480万円）	15件（1,440万円）
研究助成	15件（1,331万円）	15件（1,434万円）
合計	30件（2,811万円）	30件（2,874万円）

〈2026年度（第20期）助成対象者の募集概要〉

募集期間	2025年 8月25日（月）～10月31日（金）
告知方法	・ニュースリリース及び、関係大学、競技団体等への案内 ・当財団ホームページにて応募要項を掲載

助成分野・区分		応募資格	助成金額/件	助成件数
体験助成	ジュニア	ジュニア世代の国際大会での実績を有する、2013年4月1日以前生まれ（応募時、中学1年生以上）の個人および、これによって構成されるチーム	上限70万円	ジュニア・ベーシック 合わせて10件程度
	ベーシック	世界選手権等国際レベルを目指す、2011年4月1日以前生まれ（応募時、中学3年生以上）の個人および、これによって構成されるチーム	上限100万円	
	アドバンスド	世界選手権等国際レベルでの実績を有する、2011年4月1日以前生まれ（応募時、中学3年生以上）の個人および、これによって構成されるチーム	上限150万円	若干名
研究助成	奨励①	助成申請時、大学院博士課程（博士後期課程）在籍中もしくは満期退学者で、1995年4月2日以降生まれの方。	上限60万円	①②合わせて5件程度
	奨励②	助成申請時、大学院博士号取得後3年以内の方で1990年4月2日以降生まれの方。	上限80万円	
	基本	助成申請時、大学院博士号取得後3年以上で、大学や研究機関等で研究者として活動に従事する、1983年4月2日以降生まれの方 ※教授職又は教授職相当の職位の方は除きます	上限120万円	10件程度

※助成期間は、2026年4月から1年間。

〈第20期審査会開催〉

審査委員会	審査分野	日程	会場	審査委員
第1回 (書類審査)	体験・研究助成	2025年12月13日(土)	磐田事務所 (リモート開催)	10名
第2回 (面接審査)	研究助成	2026年 1月24日(土)	日本青年館ホテル	7名
	体験助成	2026年 1月25日(日)		5名

〈第20期応募、選考状況〉

分野	2026年度(第20期)			※参考 2025年度(第19期)		
	区分	応募件数	選考件数	区分	応募件数	選考件数
体験助成	ジュニア	8名	4名	ジュニア	7名	2名
	ベーシック	39名	10名	ベーシック	36名	11名
	アドバンスド	6名	2名	アドバンスド	10名	2名
	(計)	53名	16名	(計)	53名	15名
研究助成	奨励①	20名	8名	奨励	13名	6名
	奨励②	12名	4名			
	基本	8名	3名	基本	15名	9名
	(計)	40名	15名	(計)	28名	15名
	(合計)	93名	31名	(合計)	81名	30名

〈第20期助成金額(選考時)〉

分野	2026年度(第20期)	※参考 2025年度(第19期)
体験助成	16件(1,549万円)	15件(1,480万円)
研究助成	15件(1,149万円)	15件(1,331万円)
助成額合計	31件(2,698万円)	30件(2,811万円)

〈第20期助成金贈呈式〉

開催日	会場	出席対象者
2026年 3月14日(土) 10:00 ~ 10:30	日本青年館ホテル	第20期助成対象者、第19期生、審査委員他

※第19回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングの中で開催

《助成事業の一環としてのフォローアップ活動》

チャレンジの成果と同様に、そこに至るプロセスを大切にしている当財団の助成制度では、助成対象者に対して、PDCA(Plan Do Check Action)を基軸に、活動の振り返りや、異分野交流を通じた相互刺激、気づきの機会を提供する等フォローアップ活動のプログラムを実施しています。

(1) 第19期四半期活動報告書の提出

助成開始時に提出されたチャレンジ年間計画に対し、四半期ごとの進捗状況を、スポーツチャレンジ助成事業管理システムを介して報告させ、審査委員から一人一人にアドバイスをを行いました。

(2) 第19期中間報告会の開催

中間報告会では、チャレンジャーから上半期の活動経過を報告し、チャレンジャー相互や審査委員も含めた活発な質疑応答がなされました。

〈2025年度(第19期)中間報告会〉

日程		会場	チャレンジャー	審査委員
第1回	10月 4日(土)	日本青年館ホテル	7名	5名
第2回	10月 5日(日)		6名	5名
第3回	10月11日(土)	日本青年館ホテル	7名	4名
第4回	10月12日(日)		7名	8名

(3) 成果報告会および修了式について

スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングは、年度末の時期に現・新チャレンジャーと審査委員が一同に会して1年間のチャレンジ成果や課題を確認するとともに、異分野の交流を通じて多様な価値観に触れ、一人一人がスポーツについて「語り」「学び」「考える」機会を提供することを目的として開催している行事です。

〈第19回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング〉

日程	会場	概要	出席者
2026年 3月14日(土) 15日(日)	日本青年館ホテル	<ul style="list-style-type: none"> ・第19期生成果報告会 ・特別講演(遠藤 謙氏) ・異分野交流会他 	<ul style="list-style-type: none"> ・第19期生 23名 ・第20期生 27名 ・審査委員他 10名

(4) スポーツチャレンジ助成表彰

現在、または過去に本助成制度を受け、成果報告会等で報告されたチャレンジャーの中から、優れた成果を上げ、スポーツ振興に貢献されたチャレンジに対し、審査委員会での審議を経て、「特別賞」及び「優秀賞」を贈呈しています。

2025年度は、「特別賞」、「優秀賞」共に、該当者なしとなりました。

2. 表彰 (スポーツチャレンジ賞)

スポーツの普及・振興に功績をあげ、将来、更なる貢献が期待される個人・団体を表彰するとともに、チャレンジスピリットあふれる受賞者の足跡やその実像を通じて、挑戦(チャレンジ)することの尊さや大切さを社会に伝播することを目的としています。表彰対象者のイメージは、チャレンジ支援(事業)の趣旨を踏まえ、未来志向を鮮明にした表彰制度として、「縁の下の力持ち」的な個人・団体と捉え、報道機関、スポーツ競技団体、大学等からの候補者情報、又は推薦等を募り、2回の審査委員会審議を経て決定します。

〈本賞の概要〉

スポーツ チャレンジ賞	日本のスポーツを支える「縁の下の力持ち」の功績を称えるとともに、受賞者の更なるチャレンジと活躍を期待・奨励する表彰制度
対象者	スポーツ振興や社会の活性化につながる大きな成果に対し、献身的な活動で縁の下から支えた人物・団体
後援	(公財)日本スポーツ協会、(公財)日本オリンピック委員会 (公財)日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会

開催日	2026年 1月11日(日) さんりーな(掛川東遠カルチャーパーク総合体育館)
スポーツ チャレンジ賞	遠藤 謙氏 (義足エンジニア、株式会社Xiborg(サイボーグ)代表、ソニーコンピュータサイエンス研究所リサーチャー) “Blade for All「誰もが走れる社会」を実現するために”
記念事業	“ブレードランニングクリニック&ユニバーサルかけっこチャレンジ in 静岡” ・ブレードランニングクリニック 指導者:遠藤 謙(受賞者)、佐藤 圭太(2016年リオパラリンピック銅メダリスト)、春田 純(2012年ロンドンパラリンピック4位)、池田樹生(2017年世界パラ陸上銅メダリスト)、 ・ユニバーサルかけっこチャレンジ 指導者:高瀬 慧(2012年ロンドン五輪、2016年リオ五輪出場)
情報公開	・記念事業の様子は当財団ホームページにて公開・掲載

〈2025年度(第18回) スポーツチャレンジ賞受賞者の選考〉

候補者募集	2025年 7月 1日(火) ~ 9月30日(火)
選考委員会	第1回 2025年12月13日(土) 磐田事務所(リモート開催) 第2回 2026年 1月24日(土) 日本青年館ホテル 25日(日) 日本青年館ホテル
表彰式	2026年 6月下旬(予定)
スポーツ チャレンジ賞	安田 享平氏 (ブラインドマラソン/ガイドランナー指導者) ・NPO法人 日本ブラインドマラソン協会 常務理事(強化委員長) ・日本製鉄君津 陸上部監督/runwwb 代表 “ガイドランナーの第一人者として競技力向上と、伴走文化の浸透・拡大を牽引”
情報公開	・表彰式の様子は当財団ホームページにて公開・掲載(予定) ・受賞者の功績や、知られざる足跡等詳細情報を、当財団ホームページ、スペシャルコンテンツ(特集記事)「BACK STORIES(バックストーリーズ)」の中で紹介(予定)

3. 普及啓発のための情報発信

スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会の活性化に寄与することを目的に、事業の活動に関する情報を、ホームページ等を通じて広く社会に対して発信しています。

また、刊行物やリリース発行での広報活動の充実にも努めています。

情報発信手段	概要
ホームページ	主な掲載内容 ・各事業活動の告知(案内、募集、結果報告等) ・第19期スポーツチャレンジ助成対象者の実像を紹介
ニュースリリース	・スポーツチャレンジ助成 助成対象者募集、対象者決定等 計4件
刊行物	・YMFS通信 毎月配信 (配信先 950か所) ・2024年度年間事業報告書 Yearly Digest 900部

◆スポーツ体験促進事業（公2）

社会や家庭生活における環境の変化等により、子どもたちの体力・運動能力の低下や、自然体験の機会が減少していると言われる中で、次代の人材育成の基礎となる、心身ともに健全な子どもたちの育成を目指し、スポーツや自然がより身近なものとなるさまざまな運動機会や自然体験機会の創出を目指しています。

本事業では、「子どもたちのスポーツ現場のより近くに」を大切な視点に置いて、私たちの持つ事業リソースを活かし得る分野を中心に、各種体験機会を提供しています。

1. 各種体験活動

(1) ジュニアヨットスクール葉山（セーリング体験）

心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成を目的に、小学生から中学生を対象として、通年型（4月～翌年3月）のヨットスクールを、神奈川県葉山町葉山マリーナを拠点に運営しています。

世代や個々のセーリングの技術レベルに合わせた独自のクラス分けと、これに沿ったカリキュラム等により、原則、2回の通常講習を行なっています。

セーリング指導、水辺活動・安全対策等に加えて、協調性やコミュニケーション能力等を養うことを目的に、夏季合宿を実施しています。

2025年度は、9名のスクール生を対象に活動しました。また、昨年度は実施が叶わなかった夏季合宿は5名の参加者にて開始し、技術力の向上は勿論、目標としている、自主性、協調性等々、日頃の練習とは異なる環境での経験により、一回り成長出来たのでは感じております。

また葉山周辺で開催される競技大会にも参加する等、より総合的な視点でのプログラムを実施しています。

〈指導方針〉

- ① 年度初めに1年間の目標を設定し、PDCAに基づく指導
- ② セーリングに関する適切な知識、経験、技能を備えた指導者による適切な指導
- ③ 逞しい心や競う力を養う目的から、上級者を中心とした葉山周辺及び年度末のレガッタへの参加
- ④ セーリング技術の向上と人材の育成を目的とした浜名湖での夏季合宿の実施
- ⑤ 「自然・水辺体験学習」を取り入れた総合的なプログラムを通じて、海、水辺、海事に関する教育を実施
- ⑥ スクールの指導理念や活動状況を共有し、理解協力を促進する目的で保護者会を年1回開催

〈スクール講習クラス〉

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① ベーシッククラス(入会初年度) | 毎月2回(年間24回) |
| ② マスタークラス | ↑ |
| ③ エキスパートクラス | ↑ |

〈2025年度スクール活動〉

スクール活動においては、指導者、保護者、スクール生の協力を得ながら、スクールの全活動を実施。

〈通常講習以外の主な活動〉

	実施内容		日程	場所
〈2025年〉				
1	関東水域OPヨットレース	3名参加	5月18日	葉山新港
2	津波訓練(生徒/指導者)	13名参加	6月22日	葉山新港 森戸海岸
3	安全講習会(生徒/指導者/保護者)	14名参加	7月 6日	葉山マリーナ、森戸海岸


4	夏季合宿	5名参加	7月23日～27日	三ヶ日青年の家
5	クリスマス会(生徒/指導者/保護者)	20名参加	12月21日	葉山マリーナ
〈2026年〉				
6	安全祈願(生徒/指導者)	16名参加	1月11日	森戸神社
7	セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖	5名参加	3月20日～22日	三ヶ日青年の家

(2) セーリング競技会(セーリング競技体験)

〈セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖〉

本事業は、心身ともに健全な子どもたちの育成を目的に、全国のジュニア・ユースセイラーが一堂に会し、日頃の練習成果や、次年度の目標確認の場として、また、選手・指導者同士の交流や技術向上に資することを目的に、年度末に開催しています。

〈第34回 YMFSセーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖の概要〉

開催日時	2026年 3月20日(金) ～ 22日(日)(3日間)
開催場所	静岡県立三ヶ日青年の家
主催	(公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団
公認団体	(公財)日本セーリング連盟(承認番号2025-61)
運営協力	(特非)静岡県セーリング連盟
助成	(独法)日本スポーツ振興センター「スポーツ振興くじ助成金」 JSC助成金交付確定金額 3,740,000円 当該助成金は、医師、審判員・スタッフ等への謝金、大会役員等への宿泊費・交通費、運営艇等の借用料・運送料等に使用しました。  <small>第34回「セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」は、スポーツ振興くじ助成金を受けて実施しています。</small>
協賛	ヤマハ(株)、(株)ワイズギア、(株)ノースセールジャパン、 パフォーマンスセイルクラフトジャパン(株)
後援	スポーツ庁、(公財)日本スポーツ協会、静岡県、静岡県教育委員会、 (公財)静岡県スポーツ協会、浜松市、浜松市教育委員会、(公財)浜松市スポーツ協会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、静岡朝日テレビ、NHK静岡放送局、静岡第一テレビ、テレビ静岡、K-MIX、FM Haro!(一社)日本オペティミストディンギー協会、(一社)日本レーザークラス協会、
協力	静岡県立三ヶ日青年の家
競技種目	・ILCA4(4.7級)、ILCA6(ラジアル級)、OP級(初級・上級) (注)ILCA4は、2026年愛知・名古屋ユース選考ランキング対象大会
実施概要	参加団体数・・・19団体 参加人数・・・59名 参加艇数・・・59艇 ・ILC4(4.7級)19艇、ILC6(ラジアル級)12艇、OP初級17艇、上級11艇

(3) 自然体験絵画コンテスト(自然体験)

本事業は、子どもたちが自然と触れ合い、自然の中で活動するきっかけを提供することを目的に、幼児、小学生を対象に「自然体験(活動)」をテーマにした絵を描くことによって、自然体験活動への興味・関心を高め、また表現力や感性を育むことを願い開催しています。このような趣旨から体験事業に位置付けて運営しています。

〈第37回全国児童自然体験絵画コンテストの概要〉

募集期間	2025年 6月23日(月) ～ 9月12日(金)
対象	幼児、小学生
募集方法	当財団ホームページおよび募集リーフレット等にて告知
特別協賛	ヤマハ発動機(株)
協賛	マルマン(株)、(株)ワイズギア
後援	文部科学省、国土交通省、環境省、農林水産省、(一社)日本マリン事業協会、(公社)日本ユネスコ協会連盟、(一社)日本マリーナ・ビーチ協会、(特非)ジャパンゲームフィッシュ協会、(独法)国立青少年教育振興機構、(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会
審査日程	予選会:10月 9日(木)、10日(金) 最終審査会 :10月23日(木)
受賞者発表	11月 6日(木)
表彰	入賞作品 23点 最優秀賞 : 文部科学大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、農林水産大臣賞 特別賞 : 審査員長賞、日本マリン事業協会会長賞、日本ユネスコ協会連盟賞、日本マリーナ・ビーチ協会会長賞、ジャパンゲームフィッシュ協会会長賞、国立青少年教育振興機構理事長賞、日本海洋レジャー安全・振興協会会長賞、ヤマハ発動機賞、YMFS特別賞(2点) 優秀賞 : 金・銀・銅賞(幼児、小学校低学年・高学年各部門) 入選作品330点(秀作127点、佳作180点)
応募状況	作品数:5,580点(前年度7,132点) 団体数:417団体(前年度457団体)

〈審査会〉

審査会	日程	会場	内容	審査員
予選会	10月 9日(木) 10日(金)	ヤマハ発動機 コミュニケーションプラザ	専門家(画家)による審査を行い、 入選作品決定	2名
最終審査会	10月23日(木)	御茶ノ水ソラシティ	専門家、後援省庁・団体代表者 による審査で入賞作品決定	14名

〈各大臣賞表彰式〉

※コンテスト入賞者の詳細は別紙掲載

賞名	日程	会場	受賞者/贈呈者
文部科学大臣賞	12月15日(月)	東京都渋谷区	受賞者:青松 ^{あおまつ} ^{がく} さん(1年生) 贈呈者:河邊事務局長(常務理事)
国土交通大臣賞	12月12日(金)	岐阜県岐阜市	受賞者:高田 ^{たかだ} ^{かなで} さん(年長) 贈呈者:国土交通省中部地方整備局 名古屋港湾事務所長 加賀谷俊和様

環境大臣賞	12月17日(水)	大阪府岸和田市	受賞者:有水 翔汰朗さん(4年生) 贈呈者:河邊事務局長(常務理事)
農林水産大臣賞	12月16日(火)	愛知県名古屋	受賞者:森田 彪斗さん(6年生) 贈呈者:河邊事務局長(常務理事)

〈入賞作品紹介〉

情報公開	当財団ホームページにて掲載
作品展示	・国立オリンピック記念青少年総合センターで展示公開 2026年 1月15日(木) ～ 2月13日(金) ・「ジャパンインターナショナルボートショー2026」会場での展示公開 2026年 3月19日(木) ～ 3月22日(日)パシフィコ横浜会場

(4)教材の提供 (体験活動に必要な教材の提供)

本事業は、スポーツ教材の活用を通じて、子どもたちが楽しく体を動かすきっかけとなり、スポーツ好きな子どもの増加、体力・運動能力の向上、心身の健全な育成の一助となることを目的に、全国の幼稚園、小学校、ジュニアスポーツクラブ、総合型地域スポーツクラブ等を対象に実施しています。教材提供先には、活用報告書の提出を求め、模範的な活用事例は、当財団ホームページ等に掲載して社会啓発に努めています。

〈2025年度「第19回スポーツ教材の提供」の概要〉

募集期間	2025年 3月 6日(木) ～ 5月12日(月)
活用対象	幼児から中学生 (タグラグビーセットは小学生以下)
提供先団体	教材を継続的に活用してスポーツ機会を提供できる団体(保育園、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、特別支援学校、児童クラブ、スポーツ少年団・クラブ・スクール等、スポーツに取り組む団体)
教材内容	① ボッチャボールセット ② タグラグビーセット
募集方法	当財団ホームページおよび教育委員会等を通じて告知
選考方法	書類審査の上、第三者による抽選により決定
結果通知	当財団ホームページに抽選結果掲載後、提供先団体へメールにて通知

〈抽選会〉

申請数	316団体(前年度339団体)
抽選会	5月23日(金) 明治安田生命ビル15F ヤマハ発動機(株) 東京事務所内 (公財)日本スポーツ協会 岩田 史昭 常務理事による抽選
抽選結果	120団体(前年度120団体) ※ボッチャボールセットおよびタグラグビーセット各60団体

(5)体験型スポーツ教室/イベント

近年の社会や家庭等、生活環境の変化を背景に、子どもたちが自然の中や水辺での活動する機会や、運動機会が減少していると言われている中で、身近にこれらを体験する機会を提供することを通じて、心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成を支援すべく、当財団がこれまでの事業で培ってきた知見やネットワーク等を活用し、当財団所在地周辺の地域を対象に体験機会を提供しています。

- ・「ユニバーサル・スポーツ(ボッチャ)体験会」 チャレンジ! ユニ★スポ

ユニバーサル・スポーツ「ボッチャ」は、障害者スポーツとして生まれた競技ですが、幅広い年齢層や運動能力、障害の有無にかかわらず、参加者誰もが楽しめ交流できるスポーツです。

スポーツを通じて多様性への理解を深め、子どもたちが体を動かすきっかけとなる、スポーツを好きになってもらう体験機会として、(公財)静岡県障害者スポーツ協会の協力を得て、静岡県下小中学校11校で、体験授業「チャレンジ！ユニ★スポ」を開催し、児童、教員542名が楽しく体験しました。

〈ユニバーサル・スポーツ(ボッチャ)体験会開催実績〉

回	日程	学校名	参加者数		
			児童生徒	教員	合計
1	9月30日(火)	浜松市立三ヶ日東小学校	31名	1名	32名
2	10月 2日(木)	島田市立五和小学校	48名	2名	50名
3	10月15日(水)	伊東市立八幡野小学校	42名	2名	44名
4	11月13日(木)	焼津市立港小学校	72名	11名	83名
5	11月27日(木)	焼津市立東益津小学校	45名	4名	49名
6	12月 2日(火)	静岡市立長田北小学校	74名	4名	78名
7	12月 4日(木)	静岡市立安西小学校	53名	2名	55名
8	12月 8日(月)	三島市立長伏小学校	54名	2名	56名
9	12月11日(木)	焼津市立和田小学校	32名	4名	36名
10	1月13日(火)	富士宮市立柚野中学校	41名	6名	47名
11	1月20日(火)	浜松市立佐久間中学校	6名	6名	12名
合 計			498名	44名	542名

2. 調査研究

スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかわる社会的な課題解決に寄与する為、当財団の特徴を活かし得る分野において調査研究を行い、その成果の社会活用を促進する活動を行っています。

(1) 障害者スポーツ調査研究プロジェクト

14年目となる障害者スポーツ調査研究分野では、2019年から取り組みました「障害者スポーツ選手のキャリア調査」100人の総括を実施し、書籍の発刊とシンポジウムにて社会配信を行いました。

・書籍の発刊

2026年3月に書籍を発刊、Webサイトに掲載

・書籍タイトル

「障害者のスポーツキャリアを考える」

～100人のインタビュー調査から見えてきた選手の実態と特徴的な事例～

・書籍の概要

【第1章】7つの視点と12のスポーツキャリアパターン

100人のインタビュー調査から、パラアスリートがどのようにスポーツをするに至ったか、及び競技の継続に関して、ある程度共通する7つの視点(条件)を見出すことができた。

障害の発生時期やスポーツを始める時期などにより、おおよそ12のスポーツキャリアパターンがあることが明らかになった。

【第2章】スポーツに対する関心の有無

スポーツを始める前の状況(スポーツに関心があるか否か)は、障害のある人がスポーツを始める前提条件といえる。「関心がある人、好きだった人、嫌いではなかった人」と「関心が無かった人、嫌いだった

た人」の事例を先天的障害者と後天的障害者に分けて見てみる。

【第3章】スポーツキャリアパターンにみるスポーツ開始時のきっかけと継続

スポーツを始めたきっかけ、及びその後の継続に影響を与えた要因について検討。以下の4つの視点で概観した。①情報提供者、②開始時重要他者、③開始場所、④継続時重要他者

【第4章】競技活動継続時の経済的支援・社会的支援

競技活動時の支援の実態について検討する事を目的に、調査中の主たる「活動継続時の支援元」について、調査時身分・障害種・競技レベル別に分類し、その特徴や事例について整理。

【第5章】モチベーション

パラアスリートのモチベーションの維持に影響を与えた要因について、内発的動機づけという視点からスポーツへの興味・関心・意欲、目標、社会的状況・環境・条件、重要な他者に着目し質的に分析。

【第6章】障害者のスポーツを取り巻く社会的環境の変化

事例から東京2020パラリンピック競技大会(正確には大会開催が決まった2013年)前後の選手の状況や社会的な状況を比較しその変化を見ていく。

【第7章】本調査のまとめといくつかの提言

ここまで見てきた調査結果を、最初に示した障害者のスポーツ実施に関する7つの視点からまとめ、考えられる提言を述べる。

(2) シンポジウムの開催

2019年から取り組んだ「障害者スポーツ選手のキャリア調査」100人の総括を行い、書籍の出版と合わせてシンポジウムで報告しました。

パネルディスカッションでは、パラリンピアンをパネリストにお招きして、自身のキャリアを踏まえながら、障害者がスポーツを開始・継続するための課題や必要な施策の在り方について探りました。

このシンポジウムを通して、様々なキャリアの実例を基に、障害者がスポーツを開始・継続するための促進要因や阻害要因を共有し、今後の障害者スポーツの調査研究やスポーツ振興にどう取り組むべきかを考えるきっかけとしました。

- ・テーマ : 「障害者のスポーツキャリアを考える」
～100人のインタビュー調査から見えてきた支援と施策の在り方～
- ・開催日時 : 2026年 3月20日(金) 13:30 ～ 15:30
- ・開催会場 : 御茶ノ水ソランティカンファレンスセンター Room C
- ・参加者数 : 40名 行政、競技団体、学校、医療福祉、企業他
- ・登壇者 : 7名
 - ・藤田 紀昭氏 日本福祉大学大学院スポーツ科学研究科 教授
 - ・河西 正博氏 同志社大学スポーツ健康科学部 准教授
 - ・齊藤 まゆみ氏 筑波大学体育系 教授
 - ・小淵 和也氏 公益財団法人笹川スポーツ財団 政策ディレクター
 - ・鈴木 徹氏 一般社団法人日本パラ陸上競技連盟 強化委員長
シドニー・アテネ・北京・ロンドン・リオ・東京パラリンピック走り高跳び6大会連続入賞
 - ・初瀬 勇輔氏 NPO法人日本視覚障害者柔道連盟 会長
北京パラリンピック柔道90kg級出場 全日本視覚障害者柔道大会90kg級7連覇 81kg級2連覇

・増子 恵美氏 公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会 書記
 アトランタ、シドニー、アテネ、北京パラリンピック車いすバスケット
 ボール4大会連続出場 シドニー大会銅メダル獲得

3. 普及啓発のための情報発信

スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会の活性化に寄与することを目的に、事業活動に関する情報を、ホームページ等を通じて広く社会に対して発信しています。

また、刊行物やリリース発行等での広報活動の充実にも努めています。

情報発信手段	概要
ホームページ	主な掲載内容 ・各事業活動の告知(案内、募集、結果報告等) ・ジュニアヨットスクール葉山の活動紹介 ・スポーツ教材の提供の模範的な活用事例の紹介 ・第37回全国児童自然体験絵画コンテストの実施報告 ・調査研究活動に関する報告書の情報等
ニュースリリース	・スポーツ教材の提供募集、対象者決定等 計8件
刊行物	・YMFS通信 毎月配信 (配信先 950か所) ・2024年度年間事業報告書 Yearly Digest 900部 ・書籍「障害者のスポーツキャリアを考える」 1000部

【事務報告】

1. 評議員会、評議員選定委員会、理事会

〈評議員会〉

	開催日時・会場	議事
定時	2025年 6月13日(金) 明治安田生命ビル4F会議室	〈決議事項〉 第1号議案 2024年度計算書類等承認の件(承認可決) 第2号議案 理事選任の件(承認可決) 第3号議案 監事2名選任の件(承認可決) 〈報告事項〉 ・2024年度事業報告、2025年度事業計画報告 ・評議員選定委員会における評議員選任の報告他

〈評議員選定委員会〉

	開催日時・会場	議事
	2025年 6月13日(金) 明治安田生命ビル4F会議室	〈決議事項〉 評議員選任の件(承認可決)

〈理事会〉

回	開催日時・会場	議事
1	2025年 5月23日(金) 明治安田生命ビル4F会議室	〈決議事項〉 第1号議案 2024年度事業報告承認の件(承認可決) 第2号議案 2024年度計算書類等承認の件(承認可決) 第3号議案 定時評議員会招集の件(承認可決) 第4号議案 評議員候補者推薦の件(承認可決) 第5号議案 審査委員選任の件(承認可決) 〈報告事項〉 ・代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告他
2	2025年10月24日(金) 明治安田生命ビル4F会議室	〈報告事項〉 ・2025年度上半期事業概況及び下半期事業活動報告 ・2025年度中間決算及び収支見通し報告 ・代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告他
3	2026年 2月27日(金) 明治安田生命ビル4F会議室	〈決議事項〉 第1号議案 2026年度事業計画承認の件(承認可決) 第2号議案 2026年度収支予算承認の件(承認可決) 第3号議案 2026年度資金調達及び設備投資の見込み承認の件 (承認可決) 〈報告事項〉 ・2025年度事業概況報告 ・2025年度収支見通報告 ・代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告他

2. 評議員、理事、監事

〈評議員（6名）〉

2026年 3月31日時点

常・非常勤	氏名	現職
非常勤	相浦 勇二	ヤマハ発動機(株)顧問
〃	岩田 史昭	(公財)日本スポーツ協会 常務理事兼事務局長
〃	加藤 久喜	浜松ホトニクス(株)代表取締役副社長 副社長執行役員
〃	武井 一浩	弁護士
〃	藤原 正樹	(公財)日本パラスポーツ協会 常務理事
〃	松山 智彦	元ヤマハ発動機(株) 取締役

〈理事（9名）〉

2026年 3月31日時点

常・非常勤	氏名	現職
非常勤	渡部 克明	元ヤマハ発動機(株) 取締役会長
常勤	河邊 幸司	(公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団 常務理事兼事務局長
非常勤	伊坂 忠夫	立命館大学 副学長、立命館大学 スポーツ健康科学部 教授
〃	大井 義洋	早稲田大学 スポーツ科学学術院 准教授
〃	岡本 知彦	ヤマハ発動機(株) 執行役員 人事総務本部長
〃	千足 耕一	東京海洋大学 学術研究院 教授
〃	能瀬 さやか	ハイパフォーマンスセンター、 国立スポーツ科学センター スポーツ医学研究部門スポーツクリニック 婦人科
〃	藤田 紀昭	日本福祉大学大学院 スポーツ科学研究科 教授
〃	増田 和実	金沢大学 人間社会研究域人間科学系 教授

〈監事（2名）〉

2026年 3月31日時点

常・非常勤	氏名	現職
非常勤	市村 清	市村清公認会計士事務所・公認会計士
〃	見辺 了祐	ヤマハ発動機(株)統合監査部長

3. 主な事業協力者・関係者

当財団の各事業の運営にあたっては、協賛、後援、賛同等さまざまな立場でご支援いただく多くの皆様に支えられております。以下に掲載させて戴く皆様は、具体的役割として登録させて戴いた一部の皆様になります。

〈スポーツチャレンジ助成審査委員（15名）〉 ※スポーツチャレンジ賞選考委員兼任

2026年 3月31日時点

役職	氏名	現職	専門分野
名誉 審査委員長	浅見 俊雄	東京大学 名誉教授、日本体育大学 名誉教授	運動生理学
審査委員長	伊坂 忠夫	立命館大学 副学長、 立命館大学 スポーツ健康科学部 教授	バイオメカニクス
審査委員	内田 若希	九州大学大学院 人間環境学研究院 准教授	スポーツ社会学
〃	片山 敬章	名古屋大学 総合保健体育科学センター 教授	運動生理学
〃	小島 智子	株式会社チアホリック 代表取締役	元NFLチアリーダー
〃	杉本 龍勇	法政大学 経済学部 教授	スポーツ経済学
〃	瀬戸 邦弘	鳥取大学 教育支援・国際交流推進機構 准教授	スポーツ文化人類学
〃	高橋 京子	フェリス女学院大学 グローバル教養学部 教授	スポーツ文化人類学
〃	高橋 義雄	早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授	スポーツ社会学
〃	野口 智博	日本大学 文理学部 教授	トレーニング科学
〃	能瀬 さやか	ハイパフォーマンスセンター、 国立スポーツ科学センター スポーツ医学研究部門 スポーツクリニック 婦人科	婦人科医
〃	増田 和実	金沢大学 人間社会研究域人間科学系 教授	運動生理学
〃	丸山 弘道	特定非営利活動法人日本スポーツ振興協会	テニス指導者
〃	村上 晴香	立命館大学 スポーツ健康科学部 教授	応用健康科学
〃	吉岡 伸輔	東京大学大学院 総合文化研究科 准教授	バイオメカニクス

〈スポーツ教材提供 抽選者〉

2025年 5月23日時点

役職	氏名	現職
評議員	岩田 史昭	(公財)日本スポーツ協会 常務理事兼事務局長

〈調査研究プロジェクトメンバー（4名）〉

2026年 3月31日時点

プロジェクト	役職	氏名	現職
障害者 スポーツ	リーダー	藤田 紀昭	日本福祉大学大学院 スポーツ科学研究科 教授
	メンバー	齊藤 まゆみ	筑波大学 体育系 教授
	〃	河西 正博	同志社大学 スポーツ健康科学部 准教授
	〃	小淵 和也	(公財)笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所政策ディレクター

〈第37回全国児童自然体験絵画コンテスト審査員（16名）〉

2025年10月31日時点

役職	所属	氏名	現職
審査員長		国広 富之	俳優・画家
審査員	専門家 (画家)	杉山 悦照	(一社)創元会 元会員、浜松美術協会 会員
		坂本 眞知子	(一社)創元会 会員
		葛城 昌弘	文部科学省 総合教育政策局地域学習推進課 青少年教育室室長補佐
	後援 省庁	安堵城 勝俊	国土交通省 港湾局海洋・環境課 専門官
		松本 和也	環境省 水・大気環境局環境管理課 課長補佐
		塚本 邦芳	農林水産省 水産庁漁港漁場整備部計画・海業政策課 課長補佐
		金子 純蔵	(一社)日本マリン事業協会 専務理事
	後援 団体 企業	上岡 あい	(公社)日本ユネスコ協会連盟 企画広報部長代行
		山下 雅人	(一社)日本マリーナ・ビーチ協会 常任理事
		東 知憲	(特非)ジャパンゲームフィッシュ協会 専務理事
		古川 和	(独法)国立青少年教育振興機構 理事長
		江口 満	(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会 理事長
		近藤 重大	ヤマハ発動機(株)人事総務本部渉外部 部長
	財団 役員	千足 耕一	東京海洋大学 学術研究院 教授、当財団 理事
		渡部 克明	(公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団 理事長

〈ジュニアヨットスクール葉山指導員（10名）〉

2026年 3月31日時点

	クラス	役職	氏名	備考
1	全クラス	校長	板倉 弘尚	ヤマハ発動機スポーツ振興財団
2		コーチ	鎌田 祥一	日本スポーツ協会公認スポーツリーダー
3			山崎 康弘	日本スポーツ協会公認指導員
4			神代 幸介	
5			竹腰 真紀子	栄養士
6	ベーシック マスター	主任コーチ	湯原 浩一	日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、救急救員
7		コーチ	石上 潔	
8			鈴木 大翔	
9			高橋 茂美	
10	山口 嘉代子			

4. 自律的ガバナンスの取り組み

当財団では、公益目的事業の質の向上を目的に下記について取り組みました。

《体制について》

・評議員選任

→評議員任期満了(4年)にともない、定款第10、11条に則り6月13日評議員選定委員会(※外部委員2名、評議員2名、監事1名 計5名)を開催し、5月23日理事会にて推薦した候補者6名を審議・承認

・監事選任

→監事任期満了(4年)にともない、定款第20、21条に則り6月13日定時評議員会を開催し、5月23日理事会にて推薦した候補者2名(※内1名は、当該法人・子法人の理事・使用人ではない者、なかった者)を審議・承認

《事業活動全般について》

・監査実施

→事業活動全般における、透明性、正確性の維持、継続及びコンプライアンス遵守を目的に、監査(監事2名、事務局3名 計5名)を、下記の通り実施

・第1回→2025年 5月 8日(木)

・第2回→2025年10月17日(金)

【事業関連情報】

1. スポーツチャレンジ助成対象者

(2025年度(第19期) 体験助成 (15名))

区分	氏名	種目	チャレンジテーマ
ジュニア	ふるさわ りく 古澤 陸	レスリング/選手	2025年U15アジア選手権・U17世界選手権で優勝し、ブリスベン五輪出場を目指す
	やすい えいじゅん 安井 栄純	体操競技/選手	2028年ロサンゼルス五輪で団体・個人金メダル獲得
ベーシック	いわもと れいな 岩本 鈴菜	フェンシング(フルーレ)/選手	2028年ロサンゼルス五輪でメダル獲得
	おおしま たくと 大島 拓人	トライアスロン/選手	2032年ブリスベン五輪で、日本人初のメダル獲得
	おおはら けいしん 大原 慶心	テコンドー/選手	アジアジュニア選手権・国際大会でメダル獲得
	おのざわ しま 小野澤 志真	ラグビー/選手	ラグビー日本代表選手として2031年W杯に出場し、世界の舞台で活躍する
	かくたに たいき 角谷 太樹	体操競技/選手	2028年ロサンゼルス五輪で金メダル獲得
	くろやま じん 黒山 陣	モータースポーツ(トライアル) /選手	トライアル世界チャンピオンになる
	こにし はると 小西 陽人	ウインドサーフィン/選手	2025年BOYS部門(U18)で世界ランキング3位以内、国際大会上位入賞を目指す
	ちげ あやね 地下 綾音	スノーボードアルペン/選手	全日本選手権優勝、ワールドカップ出場
	ちば あつき 千葉 忠輝	フェンシング(フルーレ)/選手	2028年のロス五輪を目指し、国際大会上位入賞
	ツェンガー マーク	サッカー/選手	2025年U17サッカーワールドカップ出場
	まつむら ようた 松村 陽太	アイスホッケー/選手	NCAAからNHLの選手となり、世界の舞台で活躍する
アドバンスド	ながす ももか 長洲 百香	カヌースラローム/選手	U23世界選手権のスラローム決勝出場、カヤッククロス入賞
	なくさ あきら 名草 慧	ハンググライダー/選手	アジア人初のハンググライダー世界チャンピオンを目指して

〈2025年度(第19期) 研究助成 (15名)〉

区分	氏名	分野	チャレンジテーマ
奨励	いっだ ひかり 厳田 光里	自然科学	収縮時の股関節深部筋に着目した筋機能と関節安定性の関連解明
	いなば たける 稲葉 健		高強度運動と中強度運動の併用による骨格筋の糖・乳酸代謝適応の解明
	さいとう りく 斉藤 陸		完全損傷前十字靭帯を自己治癒に導く保存的治療確立と靭帯自己治癒メカニズムの解明
	まつむら てっぺい 松村 哲平		トレーニング応用に向けたカフェインと運動誘発性筋損傷の関係の解明
	とみす はやと 戸簾 隼人	人文社会	社会学・心理学的な視点による、地域政策主導のサイクルツーリズムの継続性の検証
	にった りかこ 新田 理花子		近世薩摩の武士のスポーツ文化における「男色」の役割と変遷を明らかにする
基本	いちかわ じゅん 市川 淳	自然科学	局面を変える選手交代:パフォーマンスを高める連携の情報処理モデルの解明と実践
	かわま らき 川間 羅聖		筋力トレーニングによって筋肥大の個人差が生じる要因の解明 -骨格筋の有するユニークな筋線維走行に着目して-
	しみず じゅんや 清水 純也		胎盤・骨格筋連関から探る「運動適応性の個体差」の起源
	はやし かずひろ 林 和寛		なぜ運動トレーニング後の筋痛を強く感じる者がいるか
	みつはし りさ 三ツ橋 利彩		女性アスリートに特化した熱中症対策の構築
	むらもと ゆうき 村本 勇貴		呼気ガスからの揮発性酸化脂質を用いた水素ガスによる疲労軽減効果の解明
	もりなが こうすけ 森永 浩介		ジュニアパラアスリートのための革新的な低コストのクラウチングスタート用前腕義手:3Dプリンティング技術による経済的障壁の軽減
	ひらつか たくや 平塚 卓也	人文社会	運動部活動改革における政策学習に関する研究
	よしざわ なお 吉沢 直		気候モデルを用いた将来における日本全国のスキー場の生存可能性評価

(2026年度(第20期) 体験助成 (16名))

区分	氏名	種目	チャレンジテーマ
ジュニア	くろだ くるみ 黒田 胡桃	新体操/選手	日本代表として 2028 年ロス五輪 2032 年ブリスベン五輪への出場及びメダル獲得
	しみず なの 清水 菜乃	フェンシング(フルーレ)/選手	U20 世界選手権に日本代表として出場、メダル獲得
	よしざき そらの 吉崎 空乃	競技ダンス/選手	世界選手権決勝進出、国際大会上位入賞
	にしの たいが 西野 太翔	フィギュアスケート/選手	世界ジュニア選手権優勝 2030 年フランス五輪上位入賞
ベーシック	かくたに たいき 角谷 太樹	体操競技/選手	2028 年ロス五輪で金メダル獲得
	すぎ りょうま 杉 僚真	ウインドサーフィン/選手	ワールドカップ U18 ジュニアボーイズクラス優勝
	たねだ なつは 種田 なつは	アーティスティックスイミング/選手	国内主要大会で連覇・メダルを獲得、国際大会入賞
	ちば あつき 千葉 忠輝	フェンシング(フルーレ)/選手	2028 年のロス五輪を目指し、国際大会上位入賞
	とよずみ りゅうせい 豊澄 隆成	セーリング/選手	ILCA6 を極め、ILCA7 への飛躍 日本ユースセーラーとして世界トッププレーヤーへ
	ひらやま はる 平山 悠	トライアスロン/選手	国際大会上位入賞 ブリスベン五輪でメダル獲得
	ふるさわ りく 古澤 陸	レスリング/選手	2026 年 U17 世界選手権優勝 ブリスベン五輪で上位入賞
	やすい えいじゅん 安井 栄絢	体操競技/選手	2028 年ロス五輪団体・個人で金メダル獲得
	よこくら つぼみ 横倉 つぼみ	トライアスロン/選手	世界ジュニアトライアスロン選手権出場 国際大会上位入賞
	わだ いんか 和田 胤佳	アルペンスノーボード/選手	2027 年デフリンピックにて GS,SL2 種目で金メダル、健 聴者ワールドカップ出場
アドバンスド	しまだ あやの 島田 綾乃	アーティスティックスイミング/選手	2028 年ロス五輪でメダル獲得
	のぐち りゅう 野口 颯	ウインドサーフィン・ウェイブ/選手	U21 ワールドチャンピオン及び、プロクラス TOP20

〈2026年度(第20期) 研究助成 (15名)〉

区分	氏名	所属	分野	チャレンジテーマ
奨励 ①	いまい あやの 今井 彩乃	立命館大学大学院	自然科学	低酸素環境を必要としない低酸素トレーニング :水泳における自発的低換気を用いた高強度スプリント運動の効果
	えいはら ゆうり 永原 悠利	立命館大学大学院		個人の筋特性と動作特性を基盤とした 効率的かつ安全な最適走動作の構築
	おおた かずたか 太田 一岳	東京大学大学院		爆発的筋力は遠隔部位の冷却により向上するか?
	かのう りょうたろう 狩野 遼太郎	電気通信大学大学院		運動による乳酸動態を筋細胞レベルで解明する
	こ ぎょうえつ 胡 暁越	広島大学大学院		暑熱下運動後における熱中症対策としての 動静脈吻合血管冷却の効果検証
	はっとり さくら 服部 桜	日本体育大学大学院		スポーツ関連遺伝子の機能検証モデルの確立 ～候補遺伝子から要因遺伝子へ～
	ふじた まこ 藤田 真子	同志社大学大学院		心拍－運動リズム同期化現象による血液循環最適化の解明
	いまいずみ たく 今泉 拓	鹿屋体育大学	人文 社会	概数効果を利用した目標設定の有効性に関する実験的検討 :野球パフォーマンスを例として
奨励 ②	しまね ゆうた 嶋根 裕太	東京大学大学院	自然科学	強化学習を用いたスポーツ義足と 身体制御の共設計による運動メカニズムの解明
	にしかわ だい 西川 太智	立命館大学大学院		運動中に動員される筋線維と 筋肥大誘発性マイオカインの連関の解明
	まきの あきとし 牧野 晃宗	立命館大学		ランニング時のメカニカルストレスと骨代謝 :生理学および力学的アプローチによる疲労骨折のリスク解明へのチャ レンジ
	とよしま せいや 豊島 誠也	広島大学大学院	人文 社会	伝統スポーツを再解釈する若者たち －持続可能なスポーツ観の形成プロセスの解明
基本	いのうえ こうしろう 井上 恒志郎	北海道医療大学	自然科学	海馬に対する自発運動刺激の強制運動による代替可能性検討
	そん ちやんふあん 成 昌 夔	東京科学大学		運動におけるヒストンラクチル化に着目した乳酸バイオロジーの開拓
	かわと ゆうや 川戸 湧也	三重大学	人文 社会	SNS 時代におけるスポーツの「道」概念の変容 :「柔道」と「野球道」の言説に見る伝統的価値観の再生産と汚染

2. 第34回セーリング・チャレンジカップIN 浜名湖 参加団体及び上位入賞者

〈参加団体:19団体 参加艇数:59艇 参加人数:59名〉

都道府県	クラブ名	隻数	人数
東京都	夢の島ヨットクラブ	2	2
神奈川県	神奈川県ユースヨットクラブ	7	7
神奈川県	江の島ヨットクラブジュニア	6	6
神奈川県	湘南ジュニアヨットクラブ	1	1
神奈川県	YMFSジュニアヨットスクール葉山	5	5
山梨県	山中湖村立山中湖中学校ヨット部	9	9
長野県	諏訪湖ジュニアヨットクラブ	2	2
静岡県	熱海ジュニア海洋クラブ	1	1
静岡県	静岡県セーリング連盟	1	1
愛知県	海陽海洋クラブ	3	3
三重県	三重県立津工業高等学校ヨット部	4	4
三重県	三重県セーリング連盟ジュニアユースヨットクラブ	3	3
大阪府	四天王寺高等学校琵琶湖ヨット倶楽部	1	1
大阪府	大阪府立住吉高等学校	1	1
岡山県	瀬戸内ジュニアセーリングクラブ	2	2
広島県	公益財団法人広島県セーリング連盟	2	2
香川県	B&G高松海洋クラブ	7	7
愛媛県	B&G新居浜海洋クラブ	1	1
鳥取県	米子高専/鳥取県セーリング連盟	1	1

〈OP級〉

順位	OP 初級 (参加 17 艇)		OP 上級 (参加 11 艇)	
	氏名	所属	氏名	所属
第1位	いけがや けんしん 池ヶ谷 絢真	海陽海洋クラブ	たかはし たける 高橋 武尊	海陽海洋クラブ
第2位	やまむら せい 山村 晟	夢の島ヨットクラブ	たんば しゅうせい 丹波 翔叡	江の島ヨットクラブジュニア
第3位	よしだ るい 吉田 琉良	江の島ヨットクラブジュニア	まつうら はるま 松浦 悠真	三重県セーリング連盟 ジュニアユースヨットクラブ

〈ILCA〉

順位	ILCA4 (参加 19 艇)		ILCA6 (参加 12 艇)	
	氏名	所属	氏名	所属
第1位	もり いくと 森 郁人	神奈川県ユースヨットクラブ	かはら げんき 加原 弦季	神奈川県ユースヨットクラブ
第2位	いわなみ しゅうご 岩波 将吾	江の島ヨットクラブジュニア	いのうえ こうた 井上 航汰	米子高専/鳥取県セーリング連盟
第3位	かはら けんた 加原 賢人	神奈川県ユースヨットクラブ	とよずみ りゅうせい 豊澄 隆成	公益財団法人広島県セーリング連盟

3. 第37回全国児童自然体験絵画コンテスト入賞者

〈最優秀賞 4点〉

氏名	作品名	都道府県
文部科学大臣賞		
あおまつ かく 青松 楽	干潮、満潮の生きものに出あったよ	東京都
作品の説明：ぼくは、今年のなつ、でん車にのって、江のしまへシュノーケリングに行きました。干潮から満潮まで、海のかんさつをし、時間によって、すんでいる生きものがかわっていくことにかんどうしました。いつかふねにのって、大きな海のことを、もっと知りたいです。		
国土交通大臣賞		
たかだ かなで 高田 奏	カプトガニだー！！	岐阜県
作品の説明：岡山県の笠岡市立カプトガニ博物館で、希少な「生きた化石」カプトガニについて学んだ後、海岸近くの道を歩いていると、たまたま本物のカプトガニを発見して大興奮！！海の不思議さを感じたミラクルな体験でした。		
環境大臣賞		
ありみず しゅうたろう 有水 翔汰朗	水路のガサガサ	大阪府
作品の説明：長浜バイオ大学周辺の水路で網を使って水生生物を採集し種類や特徴を詳しく観察する体験をしました。昨年より外来種がへり在来種が増えている良い傾向が分かり身近な自然の変化と回復を実感しました。		
農林水産大臣賞		
もりた あやと 森田 彪斗	夜のスルメイカ漁にチャレンジ	愛知県
作品の説明：夏のイカつり漁はスルメイカがつかれます。ぼくはつり好きの父といっしょに福井県の漁港で、夜のイカつり漁の船に乗せてもらいました。はじめての夜づりでちょっときんちょうしました。		

〈特別賞 10点〉

氏名	作品名	都道府県
審査員長賞		
こばやし れん 小林 廉	あこがれのカプトムシ	兵庫県
日本マリン事業協会会長賞		
よこた ひなの 横田 姫愛乃	初めてクルーザーに乗ったよ	愛知県
日本ユネスコ協会連盟賞		
くらもと みれい 倉本 美怜	「せみ、持てたよ」	広島県
日本マリーナ・ビーチ協会会長賞		
おおとも はるか 大友 遥	たくさん、見つけた！	兵庫県
ジャパンゲームフィッシュ協会会長賞		
もりその いろは 森園 彩颯	はじめてのニジマスつり	鹿児島県
国立青少年教育振興機構理事長賞		
くろだ みひと 黒田 美陽人	アカハライモリの家族	兵庫県
日本海洋レジャー安全・振興協会会長賞		
つじ ゆうま 辻 悠真	海でシュノーケリング	和歌山県
ヤマハ発動機賞		
たぐち そら 谷口 湊音	だいすきなパパとうみであそんだ	兵庫県

YMFS特別賞(千足耕一理事選)		
うえの 上野 ひすい	青い山と川での冒険	山形県
YMFS特別賞(渡部克明理事長選)		
なかしま めい 中島 每音	虫がこわくて泣いてる私	福岡県

〈優秀賞 9点〉

部 門		氏 名	作 品 名	都道府県
金 賞	幼児	ふじなが ひまり 藤永 陽愛	きれいに咲いてねあさがおさん	長崎県
	小学校低学年	たにもと かほ 谷本 夏帆	レモンの木から生まれたよ	兵庫県
	小学校高学年	ごい そうすけ 五井 蒼祐	海の中のいか	新潟県
銀 賞	幼児	たかぎ えま 高木 咲葉	悠久山に行ったよ	新潟県
	小学校低学年	いずみくち そうすけ 泉口 湊祐	はじめて自分の手でつかまえたカブトムシ	兵庫県
	小学校高学年	たねだ なつか 種田 夏佳	川ヘジャンプ	兵庫県
銅 賞	幼児	なかむら ももか 中村 桃花	いろがいっぱいのうみのなか	広島県
	小学校低学年	とね ここほ 刀裨 心々羽	ダチョウにえさやり	北海道
	小学校高学年	あまの さとみ 天野 聡美	海にうかが船	大阪府

4. スポーツ教材提供先

タグラグビーセット（タグボール3個・タグベルト15本／団体）60団体

都道府県	団体名
北海道	札幌市立信濃小学校
北海道	旭川市立忠和小学校
北海道	旭川市立東町小学校
北海道	釧路共栄保育園
青森県	一般社団法人 HachinoheClub
岩手県	岩手県立盛岡聴覚支援学校
山形県	西川町立西川小学校
山形県	認定こども園ひなのこども園
福島県	郡山市立高瀬小学校
福島県	会津若松市立永和小学校
福島県	学校法人東北カトリック学園田島カトリック暁の星幼稚園
茨城県	幼保連携型認定こども園旭保育園
茨城県	大洋児童クラブ
茨城県	旭ドルフィンクラブ
茨城県	北茨城市立平潟小学校
栃木県	きくさわスポーツ少年団
埼玉県	草加市立八幡小学校
埼玉県	三郷市立幸房小学校
埼玉県	草加市立氷川小学校
埼玉県	三郷市立瑞木小学校
千葉県	木更津市立岩根小学校
千葉県	市原市立水の江小学校
千葉県	匝瑳市立八日市場幼稚園
東京都	大田区立東調布第一小学校
東京都	足立区立西新井第二小学校
神奈川県	三ツ沢幼稚園
神奈川県	左近山幼稚園
福井県	福井市日之出小学校
福井県	坂井市立三国南小学校
山梨県	鳴沢保育所

都道府県	団体名
山梨県	げんき夢こども園
山梨県	身延町立下山小学校
長野県	中野市立高丘小学校
長野県	駒ヶ根市バドミントンスポーツ少年団
静岡県	加藤学園幼稚園
静岡県	学校法人浜松平和学園 旭ヶ丘幼稚園
静岡県	静岡大学教育学部附属特別支援学校
静岡県	富士市立岩松北小学校
静岡県	菊川市立内田小学校
静岡県	富士宮市立内房小学校
静岡県	篠ヶ瀬幼稚園
静岡県	袋井市立袋井西小学校
大阪府	エトワール TRC
兵庫県	太子町立龍田小学校
奈良県	天理市立山の辺幼稚園
岡山県	しらゆり幼稚園
山口県	認定こども園下関短期大学付属第一幼稚園
愛媛県	伊方町スポーツ少年団
愛媛県	伊予市立伊予小学校
福岡県	学校法人飯塚学園 飯塚日新館小学校
福岡県	学校法人真勝寺学園 ポッポ幼稚園
福岡県	学校法人英光学園 認定こども園甘木双葉幼稚園
佐賀県	社会福祉法人洗心福祉会
長崎県	長崎県立佐世保特別支援学校北松分校
長崎県	いけだ認定こども園
熊本県	甲佐町立甲佐小学校
熊本県	第二空港保育園
熊本県	上天草市立今津小学校
大分県	大分県立中津支援学校
宮崎県	西都市立妻北小学校

ポッチャボールセット（ポッチャボール13個、審判具、収納バッグ／団体）60団体

都道府県	団体名
北海道	望洋児童センター
北海道	札幌市立稲陵中学校
北海道	函館市立えさん小学校
北海道	旭川市立旭川小学校
青森県	十和田市立四和中学校
岩手県	大船渡市立吉浜小学校
宮城県	宮城県立聴覚支援学校小牛田校
山形県	酒田市立松原小学校
福島県	郡山市立富田中学校
福島県	福島県立相馬支援学校
福島県	会津若松市立第六中学校
福島県	須賀川市立第一中学校
茨城県	那珂市立菅谷西小学校
茨城県	鉾田市立旭中学校
埼玉県	富士見市立関沢小学校
埼玉県	志木市立宗岡第二中学校
埼玉県	さいたま市立与野西中学校
埼玉県	越谷市立桜井南小学校
千葉県	山武市立大富小学校
千葉県	市原市立辰巳台中学校
東京都	小平市立小平第五中学校
東京都	足立区立寺地小学校
神奈川県	藤沢市立御所見小学校
岐阜県	多治見市立笠原小学校
静岡県	静岡市立安西小学校
静岡県	静岡県立清水特別支援学校
静岡県	静岡県立浜松特別支援学校
静岡県	しもあおベース
静岡県	沼津市立第四小学校
静岡県	長田東地区子ども会

都道府県	団体名
愛知県	田原市立福江中学校
滋賀県	愛荘町立愛知川東小学校
京都府	宇治市立北小倉小学校
京都府	南丹市立園部小学校
大阪府	大阪府立岸和田支援学校
大阪府	大阪市立昭和中学校
大阪府	大阪府立水都国際中学校
大阪府	大東市立住道中学校
兵庫県	姫路市立安富中学校
兵庫県	丹波篠山市立味間小学校
奈良県	桜井市立安倍小学校
奈良県	生駒市立生駒南小学校
奈良県	奈良市立平城東中学校
広島県	庄原市立比和小学校
広島県	庄原市立口和小学校
徳島県	小松島市北小松島小学校
愛媛県	西条市立西条東中学校
愛媛県	新居浜市立惣開小学校
愛媛県	鬼北町立泉小学校
高知県	南国市立白木谷小学校
高知県	香南市立香我美中学校
長崎県	長崎市立虹が丘小学校
長崎県	長崎市立三和中学校
長崎県	長崎南山小学校
長崎県	対馬市立西小学校
長崎県	時津町立時津小学校
長崎県	佐世保市立鹿町中学校
熊本県	水俣市立湯出小学校
沖縄県	うるま市立兼原小学校
沖縄県	浦添市立宮城小学校